

日本教育新聞社・(株)ナガセ主催 第7回 夏の教育セミナー報告

# 全国25大学が多彩な入試改革

各大学によるオンライン講演の画面



## 共通テスト利用 英語の配点に独自色

大学入学共通テストの利用を巡っては、大学ごとに英語のリーディングとリスニングの配点比率に独自色が見られる。入試センターはリーディングとリスニングの配点を各100点と同等にしたが、国立大学では従来通りリーディングを重視する傾向が強い。

本年度入試からリスニングの利用を始める東京大学はリーディングとリスニングを7対3、京都大学と大阪大学は3対1で利用する。神戸大学の岡田章宏副学長は講演の中で、民間試験の活用見送りなど受験生にとって負担となる環境の変化があったことを踏ま

## 総合型 募集枠拡大、新方式も導入

令和3年度入試で実施する総合型選抜(旧AO入試)や学校推薦型選抜(旧推薦入試)では、募集人数を拡大したり新方式を導入したりする動きが広がっている。

東京大学は、学校推薦型選抜で高校1校当たり推薦可能な生徒の人数を、これまでの最大2人から4人に増やす。男女は各1人だったが、各3人以内にする。

東大は学生構成の多様化を目的に学校推薦型選抜を平成28年度から始めたが、「推薦の条件が厳しい」とされ、出願者は低迷していた。学校推薦型選抜の基本方針では、求める学生像に「卓越した能力」「極めて強い関心」「学ぶ意欲」を掲げてきたが、講演した福田裕穂副学長は入試担当は「全てを備えている」という意味ではなく、いずれかを満たした志願者を求めていると述べ、応募を呼び掛けた。

国内で初めてAO入試を導入した慶應義塾大学。総合政策学部と環境情報学部では、総合型選抜の募集定員を100人から150人に増員する。また、入学時期の条件を緩和し、学生構成のグローバル

## 受験生の移動、学習遅れに配慮

例年、受験生の半数以上を県外者が占める横浜国立大学。受験生の県外者比率は約5割に達している。同大は来年の一般選抜はキャンパスでの個別学力検査をしないことを決めた。代わりに全学部で自己推薦書の提出を求める。経済・経営・理工・都市科学部の個別学力検査については、大学入学共通テストの点数を活用する。

感染リスクを下げるために、オンラインで行うのが広島大学。文

例年、受験生の半数以上を県外者が占める横浜国立大学。受験生の県外者比率は約5割に達している。同大は来年の一般選抜はキャンパスでの個別学力検査をしないことを決めた。代わりに全学部で自己推薦書の提出を求める。経済・経営・理工・都市科学部の個別学力検査については、大学入学共通テストの点数を活用する。

感染リスクを下げるために、オンラインで行うのが広島大学。文

## 「細かな説明、良かった」「指導に生かせる」

参加者へのアンケートによると、初のオンラインセミナーは好意的に受け止められた。最も多く掲載された文科省の前田入試室長の講演には「学校現場で得る疑問点について知ることができた」「ニュースなどでも知り得ない細かな説明が聞けて良かった」といった声が多く寄せられた。新型コロナウイルスの影響を受けながらの新テスト開始という異例の状況。現場の疑問に答える質疑応答を評価するコメントが目立った。

授業実践に対しては「新テスト対策として授業で実際に使用できる活動例のヒントを

## 授業実践

## 「共通テスト」向けの指導 教科書軸に、日常への応用も

鶴迫 貴司 教諭 東山中学校・高校(京都市)

鶴迫教諭は、今年実施された大学入試センター試験と同テストについて、共通テストのモデル問題や試行調査の問題に近い問題があったと指摘。センター試験は将来を見据え、共通テストに近い問題を導入してきたのではないかと語った。

今後の共通テスト対策については、センター試験と比べると特有かつ異なる問われ方になる可能性があり、部分的な対策が必要になるかもしれない。今後は共通テストは、共通テストに合わせた授業を、教科書を中心として、目標を達成しながら、数学的な実践を通して、もの見方捉え方を習得させる、日常生活に活用できないことが理想であり、方法③学習内容との関

「幅のある数学の面白さ、良さを伝える工夫が欠かせない」と続けた。授業の実践例では、模範解答を交えながら、①「余弦定理の証明」②「角の二等分線」の問題をサンプリングと授業での展開方法を提案する鶴迫教諭

数学の問題を日常生活に当てはめて考えさせる方法を提案する鶴迫教諭

国語 河口 竜行 教諭 渋谷教育学園渋谷中学高校(東京・渋谷区)

「生徒の主体性を伸ばす長期戦略」がテーマで、共通テストを乗りこえる「を」をテーマに、大がかりな実践を報告した。河口教諭は最初に、自己考察の問いを提示。その上で「生徒たちが主体的に学ぶ楽しさを」

「読む・書く・聞く・話す」ことに関する態度やスキルを育成させ、スキルを上げる。そして、共通テストの高得点と希望の大学合格に結び付けると、目標・到達感を語った。

その後、生徒の目指す状態として「どんな学習が必要なのかを自分の頭で考えて対応する」「本文や設問に対してクラスメイトと率直に議論する」「読む意欲を持って読む」「読む意欲を持って読む」「読む意欲を持って読む」

「読む意欲を持って読む」状態として「どんな学習が必要なのかを自分の頭で考えて対応する」「本文や設問に対してクラスメイトと率直に議論する」「読む意欲を持って読む」「読む意欲を持って読む」

基本に戻り「話す練習」

ディベートなど繰り返す

「読む・書く・聞く・話す」ことに関する態度やスキルを育成させ、スキルを上げる。そして、共通テストの高得点と希望の大学合格に結び付けると、目標・到達感を語った。

その後、生徒の目指す状態として「どんな学習が必要なのかを自分の頭で考えて対応する」「本文や設問に対してクラスメイトと率直に議論する」「読む意欲を持って読む」「読む意欲を持って読む」

「読む意欲を持って読む」状態として「どんな学習が必要なのかを自分の頭で考えて対応する」「本文や設問に対してクラスメイトと率直に議論する」「読む意欲を持って読む」「読む意欲を持って読む」